

伝統を守り、新しい息吹を 「あかしあこども園」竣工

社会福祉法人九十九里ホームがJR飯倉駅前に建設を進めてきた「あかしあこども園」が竣工し、完成を祝う式典が3月21日に行われました。

式では、九十九里ホームの井上峰夫理事長があいさつし、「あかしあ幼稚園が半世紀の歴史で築いてきた素晴らしい伝統を守りながら、新しい教育の息吹を吹き込み、地域の子育て事業に役に立ちたい」と述べました。

同園は、九十九里ホームが進める「匝瑳市版生涯活躍のまちづくり事業」の最初の施設で、本市初の認定こども園として4月に開園しました。



あいさつを述べる井上理事長(中央)



長谷浜津波避難タワーへ避難する参加者

“もしも”に備え意識高める 共興地区地震・津波避難訓練

共興小学校と長谷浜津波避難タワーを会場として3月25日、自主防災組織「共興地区を守る会」主催の地震・津波避難訓練が行われ、住民ら約200人が参加しました。

訓練は、千葉県東方沖を震源とする巨大地震が発生し、大津波警報が発令されたとの想定の下で、住民らの避難誘導や無線交信の手順などを確認。ハザードマップ(災害予測地図)を用いた危険箇所や避難経路などの検証、AED(自動体外式除細動器)の使用方法を学ぶ講習も行われ、災害時に備えた意識を高めました。

原発事故時の避難に協定締結 香取・海匝の6市町と大洗町

匝瑳市を含む香取・海匝地域の6市町と茨城県大洗町は、「原子力災害時における県外広域避難に関する協定」を結びました。

この協定は、日本原子力発電東海第二原発で重大事故が発生した場合に備え、同原発から30km圏内に位置する大洗町の住民の避難を円滑に進めるため、避難の受入期間やスクリーニング(放射線量の検査)・除染などの基本的事項を定めたものです。

避難先自治体として協定を締結したのは、匝瑳、銚子、旭、香取の4市と多古、東庄の2町。3月27日には、香取市役所で各首長が出席して調印式が行われました。



広域避難について協定を結んだ小谷隆亮・大洗町長(左から4人目)と県内6市町の首長

災害時に必要物資を供給 NPO法人と協定締結

市とNPO法人コメリ災害対策センターは3月27日、「災害時における物資供給に関する協定」を締結しました。

この協定は、大規模災害の発生時に市の要請に基づいて、同法人から優先的に土のう袋や軍手、飲料水などの供給を受けられることを規定。また、災害への備えとして、平常時から相互の連絡体制や物資供給について情報交換を行うことを定めています。

なお、同NPO法人は、全国でホームセンターを運営する株式会社コメリが、災害対策に取り組むための永続的な活動基盤として平成17年に設立した団体です。



協定を締結した株式会社コメリ関東地区本部・坂上ゾーンマネージャー(左)と太田市長

“春の風物詩”に盛況

第22回そうさチューリップ祭り

“春の風物詩”として22回目を迎えたそうさチューリップ祭りが、4月1日～15日の間、のさか花の広場（生涯学習センター前）で開かれ、赤や黄、白、オレンジなど色とりどり11種類・約6万本のチューリップが来場者の目を楽しませていました。

中日に当たる8日はイベントが開催され、よさこい鳴子踊りやピアダンスなどが披露された他、ポニーの乗馬体験や小動物と触れ合えるミニ動物園も行われました。晴天にも恵まれ、見頃を迎えたチューリップに囲まれて写真を撮る家族連れなどでにぎわいを見せました。



来場者でにぎわう会場（8日）



式典であいさつをする中村謙理事長

創立50周年を祝う

八日市場JCが記念式典

八日市場青年会議所（JC）の創立50周年記念式典が4月14日、市民ふれあいセンターで開かれました。

式典には、来賓や県内JCメンバーらの他、同JCと49年にわたり姉妹交流を続ける台湾・鳳山国際青年商會のメンバー35人も含め約300人が出席し、半世紀の節目を祝いました。

式では、中村謙理事長が「次代の担い手として、大きな責任を自覚し新しい時代の推進力となり、独自性あふれる輝く地域の実現を約束します」とあいさつ。来賓の太田市長は「式典を契機として、八日市場JCの組織力、行動力、団結力を持ってさらにまい進し、地域社会の発展に尽くされることを願いたい」と祝辞を述べました。

2羽のコウノトリが飛来

自然との共生のシンボル

市内の水田で3月中旬、2羽のコウノトリの飛来が確認されました。

両羽とも足に識別用の“足環”を装着していたことから、野田市が自然と共生する地域づくりのシンボルとして放鳥した個体、未来（メス、平成27年放鳥）とヤマト（オス、29年放鳥）であることが分かりました。同市みどり水のみちづくり課の担当者は、2羽が野生下で偶然出会って遊んでいるものとの見解を示し、「引き続き温かく見守ってください」とコメントを寄せました。



田んぼで餌をついばむコウノトリ
（八日市場八地先。3月27日撮影）

松山神社の神楽

匝瑳地区の松山神社で4月13日、市の無形民俗文化財に指定されている伝統の神楽が奉納されました。

この神楽は「下総十二神楽」と呼ばれているもので、全12演目（12座）で構成。6座目「田之神」が披露された後、見学に訪れた小学生や地元の人たちへ舞台上から餅や菓子が振る舞われました。



見学者ら
投げ込まれる餅に手を伸ばす

葦茅神社の祭礼

中央地区八日市場木（米倉）の葦茅神社で4月1日、五穀豊穰・家内安全を祈願し、地区に春の訪れを告げる祭礼が行われました。

晴天に恵まれたこの日、例年より早く咲いた満開の桜の下を出発した神輿は、笛や太鼓の軽快な音色に合わせて地区内を練り歩きました。



満開の桜の下、神輿を渡御